

### 3 菰野町内の変化と地域特性

菰野町を取り巻く環境も変化しており、こうした変化に対応していく必要があります。

#### □広域的な道路環境の向上

菰野町における最近の大きなトピックとしては、平成 31（2019）年の新名神高速道路の開通、菰野インターチェンジの開設があります。元々、中京圏、関西圏からのアクセスは良好でしたが、これらの地域とダイレクトにつながることで、特に観光・産業面の活性化には大きな期待が寄せられています。



## 人口減少時代のスタート

わが国全体では平成 20（2008）年に人口減少が始まりましたが、菰野町でも平成 30（2018）年を境に人口減少が始まっています。その一方で、総人口の 2.3%を占める外国人については人口が増えており、平成 26（2014）年から平成 31（2019）年までの 5 年間で 35%増加しています。

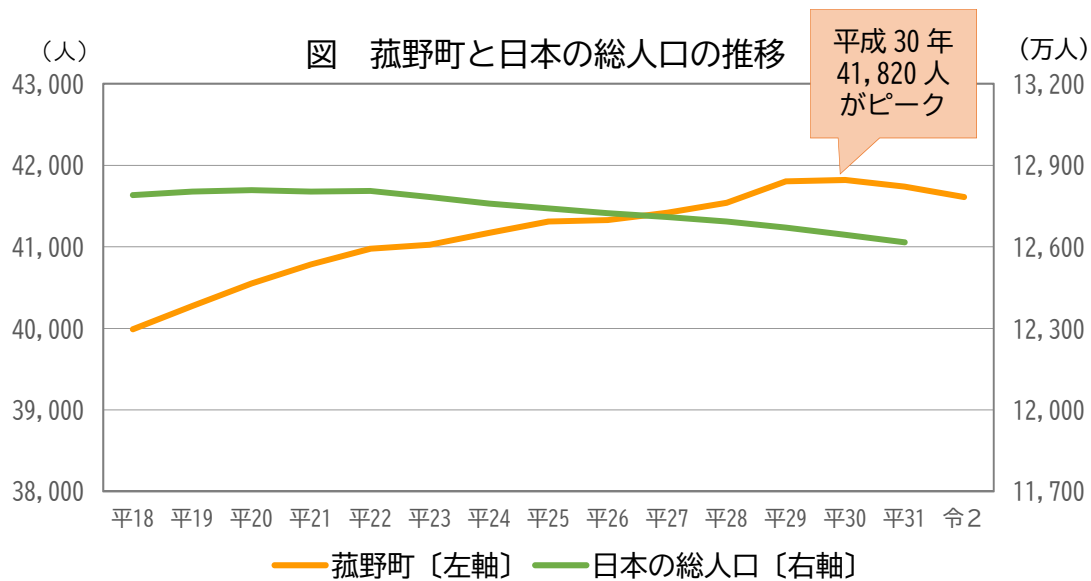
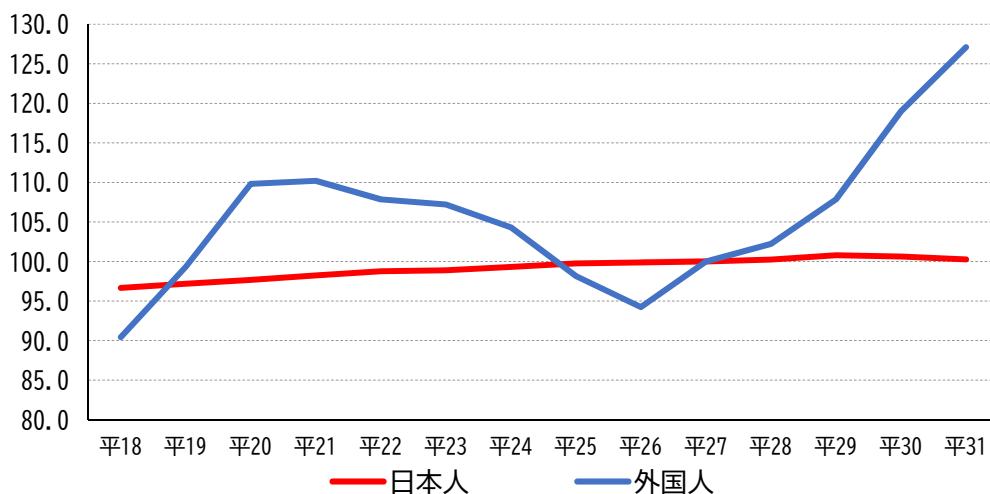


図 菰野町の日本人人口と外国人人口の推移（平 27 を 100 とした指数）

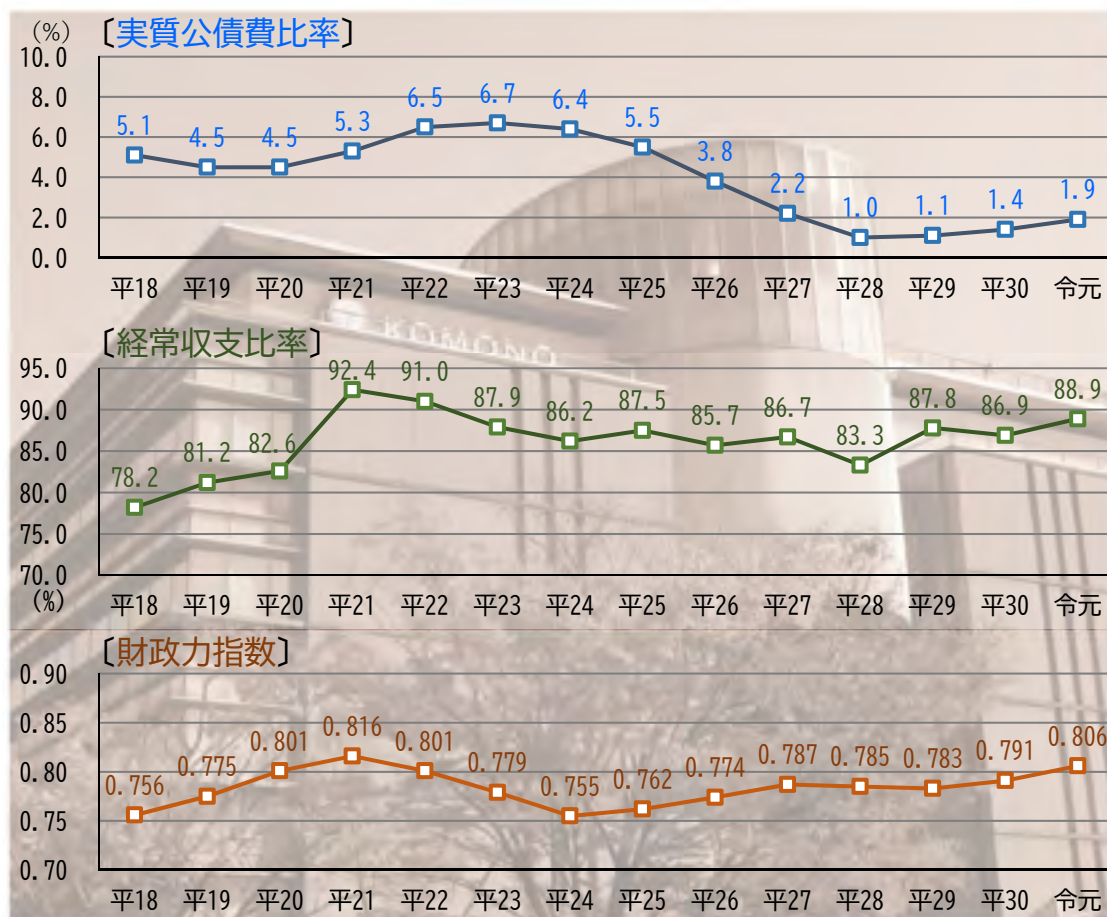


資料：住民基本台帳（各年 3 月末現在）、日本の総人口は国勢調査に基づく各年 10 月 1 日現在の推計人口

## □厳しい状況が続く財政状況

菟野町の主要財政指標をみると、町の支出のうち借金返済額の割合を示す実質公債費比率<sup>4</sup>は年々低下してきましたが近年上昇に転じているほか、経常収支比率<sup>5</sup>は90%前後で推移しており財政の硬直化が懸念されます。また、財政力を示す財政力指数<sup>6</sup>は0.8前後で推移しており、菟野町の財政状況は厳しい状況が続いています。しかも、令和2(2020)年に感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、今後さらに厳しい状況が予想されます。

図 主要財政指標の推移



資料：県財政状況資料集（令和元年度は速報値）

<sup>4</sup> 実質公債費比率：税金等の標準財政規模に対する公債費（借金返済額）等の割合。通常、3年間の平均値を使用し、18%以上の場合、新たな借金をするために国や都道府県の許可が必要となり、25%以上の場合、借金が制限される。

<sup>5</sup> 経常収支比率：人件費や扶助費、公債費などの経常的な経費に、地方税や地方交付税などの経常的な一般財源がどの程度費やされているかを求めたもの。財政構造の弾力性を測定する指標であり、低ければ低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあることを示している。

<sup>6</sup> 財政力指数：地方公共団体の財政力を示す指数で、基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があると言える。

## □住民が感じる「住みやすさ」と「定住意向」

町民アンケート結果から「住みやすさ」と「定住意向」をみると、依然として80%前後の人が菰野町を住みやすいと感じ、住み続けたいと思っていることが分かります。しかし、5年前と比べると住みにくい、移転したいと思っている人が増加傾向にあります。

図 町民アンケート調査にみる「住みやすさ」の推移

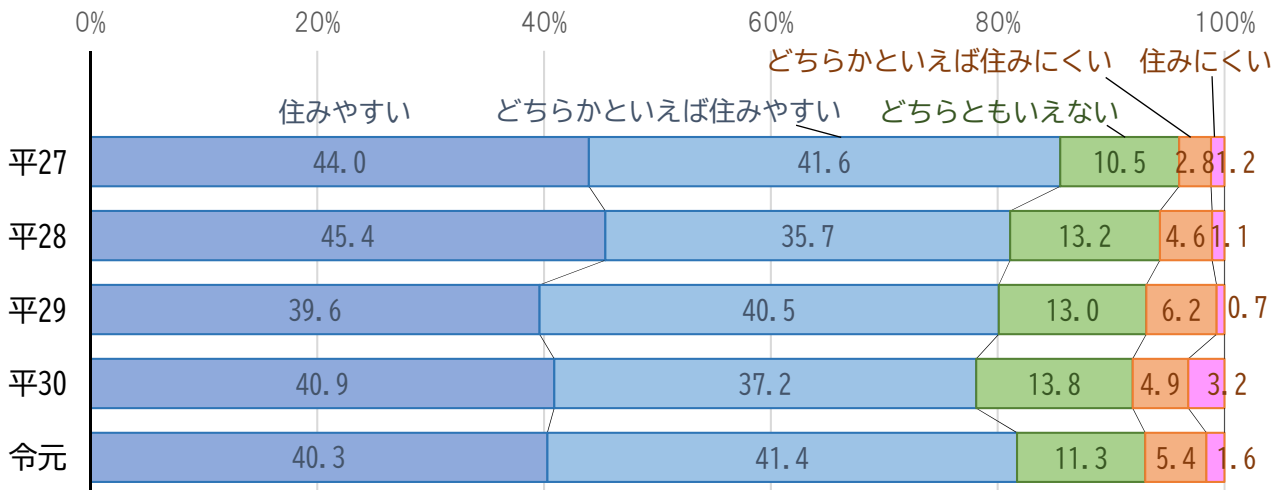


図 町民アンケート調査にみる「定住意向」の推移

